

2025 年度 傾斜的研究費（全学分）
社会連携支援（A 型・B 型） 研究報告書

※**本学 HP** での公表を前提に記入してください。

【研究費区分】：②社会連携支援（B 型（社会連携））

【研究代表者所属】：理学研究科生命科学専攻

【研究代表者氏名】：江口 克之

【研究代表者氏名フリガナ】：エグチ カツユキ

【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・ 本学理学研究科、寺山 守、客員研究員
- ・ 本学理学研究科、沓掛 丈、博士後期課程

【研究課題名】：アリ用生分解性ハイドロジェルベイト剤開発

【研究実績の概要（400 字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

八丈島において、MFC ハイドロジェルベイト剤を用いたアシジロヒラフシアリ（右上図）の全島規模試験防除を継続実施した。2026 年 4 月に受領した 2025 年度のモニタリングデータを現在精査中である。防除方法の最適化に資するアシジロヒラフアリの年間活動性に関する生態学的論文、および分担者の沓掛が効率的なモニタリングのために新規開発したアリ類自動同定カウント AI「DXANTS」に関する技術論文を現在投稿準備中である。さらに、南西諸島へ侵入しつつあるセグロウリミバエの雄除去法へ本ジェルを応用すべく（フェロモン誘引剤の基材としての転用）、2025 年 9 月から 10 月にかけて、沖縄県北部で野外設置試験を実施した（右下図）。新規試作した組立式フェロモントラップ・ケースの構造的欠陥により初期データの取得には至らなかったが、現在装置の改良と再設計を進めている。



【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

- ・ MFC ハイドロジェルベイト剤による外来アリ類の防除法の普及を行った。
- ・ 2025 年度も継続し、八丈島において全島規模で、MFC ハイドロジェルベイト剤を用いた居住地全

域防除が試験的に行われた。

- ・ 小笠原村下の父島居住地でのアシジロヒラフシアリの密度低減対策、母島での定着初期個体群の根絶対策について、技術指導を行なった（現在も継続中）。

【東京都以外への社会への提言や活動の実績】

- ・ 滋賀県大津市に対し、MFC ハイドロジェルベイト剤によるアルゼンチンアリの防除に関する技術指導を行なった。
- ・ 神奈川県ペストコントロール協会主催による「台湾ヒアリ視察団」に、研究分担者の寺山と杳掛が参加し（旅費は協会負担）、杳掛が DXANTS（前述）について発表し、日本や台湾のアリ類防除関係者から注目を集めた。

【外部資金への応募状況】

- ・ 後述の通り、科研費に応募したが、残念ながら不採択であった。

【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・ 2023 年度科研費基盤 C、「先端的で低環境負荷のミバエ類雄除去法の確立」、研究分担者、不採択。

【出版したことによる波及効果（研究費区分が③社会連携支援（B 型（出版））の場合のみ、記載してください。）】

・